

地域づくり トピックス

「冬休み無料学習会」を実施しました

昨年12月26日・27日に富岡公民館・高瀬公民館で、こども支援団体「みんなのおうえん団」による冬休み無料学習会が実施され、両日合わせて約100人の子どもとボランティアスタッフ（学生41人、大人20人）が参加しました。

この学習会では、高校生や大学生がボランティアスタッフとなり、地域の小中学生に勉強を



教えます。子どもたちは、冬休みの宿題や自主勉強の教材を持ち込み、集中して取り組んでいました。また、ボランティアスタッフによる昼食が振る舞われた後には、工作の時間があり、和気あいあいとした雰囲気の中でいきました。

この学習会は地域の人と交流しながら、子どもも大人も学べる場です。ぜひご利用ください。

今後の開催予定

▼3月31日(火) (高瀬公民館)

▼4月2日(木) (富岡公民館)

学習会に関する問い合わせ

こども支援団体「みんなのおうえん団」代表の 齋田あずさん (☎090・5567・5153)



問い合わせ 地域づくり課 (☎内線1253)

↑活動について詳しくは、こども支援団体「みんなのおうえん団」フェイスブックをご覧ください。

市内の歴史的建造物

社会教育館 10

訓育講習には2種類あり、一つは道場主催事業、もう一つは各種団体の主催事業でした。

道場主催は道場の名をもって募集するもので人員はおおよそ50人、日数は3日間または6日間で県下男女青年団指導者講習などでした。各種団体の主催は各種団体が募集して道場に申し込むもので人員はおおよそ50人、県下青年団・教育会・学校・各種団体が対象で1泊2日から6日間までで主催者の希望によります。

同一基準の下で生活することが求められ、個人的な自由は訓育講習の名のもとに規制されたのです。

1934(昭和9)年11月に天皇陛下の統監のもとに群馬県下で陸軍特別大演習が行われ、陛下が貫前神社を参拝された以後の当時の時代背景を振り返ってみると、36(昭和11)年の二・二六事件、翌年には日中戦争、さらに38(昭和13)年には国家総動員法の成立があり、時局はますます厳しい方向へと動いていったのでした。

(富岡製糸場名譽顧問 今井幹夫)



▲訓育講習時の食事風景 (『旧東國敬神道場沿革史』より)

市民の文芸

市民の文芸の掲載作品を募集しています。選者によって選ばれた作品を掲載します。漢詩と詩は隔月掲載となります。

投稿できる作品の数

- ▽俳句の部 5句以内
 - ▽川柳の部 5句以内
 - ▽短歌の部 3首以内
 - ▽漢詩の部 1編
 - ▽詩(童謡歌詞も可)の部 1編
- 投稿方法** 毎月1日(必着)までに、投稿する部門名、住所、氏名、電話番号を記入し、はがき、封書、ファクス、Eメールか直接、秘書課「市民の文芸係」へ。

注意事項

- ▽ペンネームでの応募もできますが、本名や住所などの記載がない場合は掲載できません。
- ▽掲載作品は、選者により添削される場合があります。
- ▽応募作品は返却できません。

応募・問い合わせ

- ・秘書課 (行政棟 2階)
- ☎内線 1210
- ☎ 370-2392
- 富岡市役所 (住所不要)
- ☎ 62-0357
- ✉ kouhou@city.tomioka.lg.jp

俳句

北風に奇岩尖らす妙義山 (富岡) 黒澤 克美
 獲物追ふ狐は尾っぽ靡かせて (野上) 福田 恵子
 待つ夫に心編み込む毛糸帽 (下黒岩) 吉田シズ江
 近きし友呼び戻したし虎落笛 (富岡) 小池はるみ
 老いてなほ葱掘る夫の眉太し (下黒岩) 野口ちる子
 冬囲終へて浴後の深眠り (上黒岩) 本多八千代
 指折りて亡き友数ふ日向ぼこ (七日市) 赤岩 昌三
 碑文の丘巡る吾に冬紅葉 (岡本) 柳澤 則子
 夕星に空を譲りし木守柿 (中高瀬) 佐藤 強
 どんと焼令和祝ひに空高く (黒川) 佐藤 幸三

高橋 洋一 選

短歌

リユック背に乗り合いタクシー待つバス停足元の花に雨は降りつぐ (七日市) 細山 洋子
 「こんにちは」笑顔で女学生通りすぎ杖つく我は元気をもらう (七日市) 大滝 松代
 庭先の色づきし柚子つみとりて冬至の風呂に浮かべ楽しむ (七日市) 新井 逸子
 日溜りに顔のぞかせるふきの薑妻と摘みきて春を味わう (七日市) 恩幣 森造
 冬陽浴び刈られた土手に鎮座する山の神様古き石宮 (上高田) 佐藤 順子
 白雲のふわりと浮かぶ青い空ジェット機轟音のこして消える (七日市) 宮 和子
 送られし友が上梓の歌集には波乱の生きざまそのままにあり (一ノ宮) 赤石 静江
 害獣の進入はばむ電気柵その効ありて今年は豊作 (下高尾) 小林 勝明
 台風の爪あと今も残る雄川静かな水面におち葉流れる (下高尾) 中山 千鳥
 悲しみも苦しきもまた虚しさも胸にいつしか月日流れる (七日市) 小坂橋光雄

杉山 郁子 選

詩

十月の晴れた朝 山雀は今朝も ツーツーチツと 松の枝に止まり 窓越しに 家の中を覗き込んでいる (山雀) 山雀
 |アラ 今年も 来てくれたの | 僕 天国で 父さんと一緒だよ | 母さん 一人ぼっちで 淋しくないの | 父さん年で 連れて来られないから | 僕一人で見て来たよ 無理しないで (山雀) 山雀
 冬の寒いある朝 目を覚まし外を見ると 松の枝に 山雀が来ている いつもの様に 私の方をじっと見ている (山雀) 山雀
 今年も三月末まで 山雀と出逢えるのだ 私は一入暮らし 山雀は大きな支えとなる (山雀) 山雀

宮前 利保子 選

川柳

ノンアルじゃ本音の出ない無礼講 (富岡) 時澤 独鯉
 良い人生と言へる気がする昨日今日 (富岡) 大河原富美
 給料日手土産持った人もなく (相野田) 小柴真知子
 賀状にも終活覗く数が増し (富岡) 金井 君代
 縄束子大根洗う井戸の水 (一ノ宮) 茂木 公一
 書くつもり五年日誌を購入し (南蛇井) 丸山 昭夫
 節約し儉約した金詐欺に遭い (上小林) 岩井 進
 魔法の手小豆のお手玉自慢顔 (黒川) 原田利恵子
 雨降って地固まっては困る畑 (一ノ宮) 保坂 敏夫
 誕生日先祖に感謝参り (富岡) 新藤とし子

荻原 亜杏 選